



荒 貴賀 議員
(日本共産党
幕別町議員団)

問 コロナ禍における保育所の役割は

答 感染の予防に最大限配慮しながら、開所の時期を慎重に判断することが必要

問 全国的に保育業界は慢性的な人材不足である。さらに

コロナで業務が増え、感染対策に神経をすり減らしながら子ども達と日々を過ごしている。全国的なアンケートを見ても半数がコロナで心身ともに疲れ果てている現状が見て取れ、続けられないと答えた保育士も多い。待機児童の解消を急ぐあまり、施設を最大限に利用したギリギリの施設と職員配置、保育が抱える構造的な問題が浮き彫りになっている。保育環境の改善を求め以下の点を伺う。

- (1) 保育士配置基準の引き上げと、処遇改善。
- (2) 短時間勤務保育士の規制緩和の考え方。
- (3) コロナで休所した際の代替え施設の考えは。
- (4) 保育所でコロナの感染が出た際、家庭への支援は。

町長 (1)認可保育所における保育士の配置基準については、厚生省令である「児童福祉施設の設備

および運営に関する基準」において定められている。

町内各認可保育所は、いずれも基準を上回る保育士を配置するとともに、支援の必要な園児の人数に応じて加算配置も行っていることから、現時点では、現状をさらに上回る配置は考えていない。

(2)新子育て安心プランについては、各クラスに1名以上常勤の保育士の配置を求める規制を撤廃し、1名の常勤の保育士に代えて2名の短時間勤務保育士を充てても差し支えないとされた。しかし本町では、保育の質の確保と継続した保育の実施、子どもの心の安定等を保つ観点から、常勤の保育士の配置を基本と考えており、今後においても短時間勤務保育士のみでのクラス配置は考えていない。(3)認可保育所における、施設基準を確保することが困難であることや安全な保育を行う設備、保育士の確保等多くの課題があることから、代替え施設を継続的または臨時的であっても現実的に確保する

ことは大変難しいものと考ええる。

代替え施設の確保は困難であることから、休所した施設を消毒し、施設の一部を活用し、登所希望園児の人数を把握した上で、勤務可能な保育士による限定的な保育を行うことが現実的な対応であると考えている。

(4)保育の代替施設の紹介や園児の健康状況の確認、家庭での生活の様子を聞き取りするほか、困りごとがないかの相談対応も合わせて行い、適切な窓口の紹介等を行うなどの支援が必要になるものと考えている。時間を要せず、一度に多数の保護者に連絡する手段の整備について検討していきたい。

再質問 北海道でも40の自治体で保育士に慰労金を出している。保育士に慰労金の支給を。

町長 給与制度が定められており、特殊勤務手当にも馴染まず、他の業務との公平性を考えると保育士だけへの支給は難しい。

問 コロナによって我慢が続く子ども達、のびのびと過ごせる学童保育を

答 併設するコミセンを活用しながら、運営したい

問 コロナによって我慢が続く子ども達、限界にきている

学童保育所の増築・建て替えの考えは。

町長 やまびこ学童保育所については、条例基準を満たしていないが、併設の札内北コミュニティセンター集会所を学童保育所に開放して利用している。近年の人口動態、小学校の児童数の推移や保育所の登所状況などから推計し、令和2年度をピークとして、児童数が減少していくものと推計している。今後も併設するコミュニティセンターを活用しながら、運営したいと考えている。

再質問 全国的に学童保育所に預けたい保護者は増えている。幕別町も例外ではない。大規模化する札内地域の学童保育所をどうするのか。

町長 学童保育児童数が増えているのは想定外であり、新たに施設を建てるのではなく、使える施設を利用していきいたいと考え、検討課題とさせていただく。